



小林市立小林小学校

校長通信

令和6年5月15日

第50号

(文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3510

E-mail:1401eb@miyazaki-c.ed.jp

新しく編成された今年の

登校班。約一か月が経ちますが、一年生を気遣い、振り返りながら登校する高学年の姿は頼もしく、心が和みます。また、街には多くの地域ボランティアの方々が必要所に立って見守っています。

「一番のお礼は気持ちのよいあいさつ。」と学校では言い聞かせています。時には、「今日は街のおじちゃん・おばちゃんにもあいさつできただ？」と問いかけてみてください。このような温かい朝の日常が、街を明るく輝かせ、そして落ち着きのあるものにしてれています。

報道では、「消滅するまち」が話題となっていますが、二十年もすれば、子どもたちもみんな社会人。未来のために、みんなが優しく思いやる街の姿をいつまでも保てるように、今の大人がその土台づくりをしたいものです。

## 「私は正しい」は正しいか？

四月末の衆議院補欠選挙、東京15区の選挙運動。ある陣営がほかの立候補者の街頭演説中に割り込み、大音量で叫んだり選挙カーを追いかけたりしました。当事者たちは、この行為を「表現の自由」と主張し、マスクもこぞって取り上げました。

自分が正しいと判断したら、方法を問わず相手を攻撃することが許されるのでしょうか。「正義」とは、どこで判断すればいいのでしょうか。

今回のことが「表現の自由」かどうかは評論家に任せるとして、このようなことが起こる社会に生きていく今の子どもたちは大丈夫なのでしょうか。今の子ども、つまり将来の大人に必要な力って何なのでしょう。うか。そんなことが頭に浮かんでいるとき、ある本のタイトルが目に残りました。

「誰にだって言い分はあります」

著者はフリーライターの吉田みく氏。まだ読んでいないのに面白そうです。

「社会正義」や「常識」が最優先され、言い分や言い訳も許されなれない今の社会で起こる様々なトラブル(エピソード)を集めたものらしいです。

よく考えると、同じようなことが世の中にはたくさん起こっていますね。コロナ禍の時に発生した「自粛警察」では営業する店舗や外出する人が攻撃されました。ネットの世

界では「私人逮捕系」とか「世直し系」ユーチューバーが幅を利かせています。

当事者たちは「悪いものを正すことの何がいけないんだ」「悪いのはそっちだろ。」と息まきます。

正直なところ、私も時々、同じような気持ちになり、その気持ち「怒り」に変わることがあります。

では、「正義感」とどのように向き合えばいいのでしょうか。同じようなタイトルの書籍に「私は正しい」その正義感が怒りにつながる。(安藤俊介著)があります。キーワードをいくつか挙げて…

「正義は人を息苦しくさせる」「心の間が解決できていない人が正義感で怒る」

「正義中毒になる人が増えている」…そういえば、自分は正義感から良いこと、正しいことをしたはずなのに、気持ち

がすっきりしないどころか、後悔することさえあります。それは、自分自身が「正義感」に縛られて、自分を苦しめている状態なのでしょう。

落ち着いて状況を考え、「相手はどんな気持ち？」と思いやり、時には立ち止まって自分の気持ちに折り合いをつける…。こんな心のコントロー

ルが、かえって自分を幸せにするのかもしれないと考えさせられたところです。

## 「安心・安全メール」登録はお済みですか

これまでの登録データを整理して、より便利に活用していただくために、改めて全員登録をお願いしております。災害時や緊急時の連絡にも使用しますので、まだお済みでない方はすぐに登録をお願いします。(問い合わせは、担任か教頭まで)

## 【最近の学校スナップ】

テレビや新聞での報道もありましたとおり、5月1日、子ども日を前に小林小学校出身で現在も校区内にお住いの **藤崎満吉様** から野球グローブとボールの寄贈がありました。

思わぬプレゼントに子どもたちも目を輝かせて、地域の方の学校に寄せる温かい思いを感じていました。



### 令和6年度 相談員の紹介

#### 【ハラスメントに関する相談員】

(校長) 吉井秀一      (教頭) 黒木賢一      (事務副主幹) 滝口みき

(養護教諭) 中島 恵      (保護者代表) 河島 亮 、 草野久美

※校長、教頭、保護者代表は、【体罰に関する相談員】も兼ねています。